

新潟市水族館指定管理者 令和7年度業務計画書

※ 事業やショープログラム等については、名称・内容・実施時期等は案であり、変更する場合があります。

1 施設の管理・運営に関する業務

(1) 基本姿勢

「新潟市水族館の管理に関する基本協定書」「新潟市水族館の管理に関する年度協定書」に従い、「新潟市水族館条例」「新潟市水族館条例施行規則」及び、その他「新潟市水族館の管理運営業務を遂行する上で関連する法規」を遵守し、新潟市の示す「新潟市水族館の基本的使命」の具現化に向けて業務を推進します。

新潟市水族館の基本的使命のもと、当財団のミッションを「自然について楽しみながら学べる機会を提供し、生命の多様性が尊重される社会に貢献する」、ビジョンを「新潟で一番愛される施設を目指す」とし、多くのお客様に来ていただけるような魅力ある事業を展開し、サービスの徹底、満足度向上に努めてまいります。

業務に必要な専門的知識や技能・資格等を備えた職員を配置し、平成2年の開館当初から培ってきた豊富な知識と経験を生かし、「安全・安心の確保」「安定した施設運営」を心掛け、効果的かつ効率的な管理運営を行っていきます。

(2) 入館者・入館料収入

「新潟市水族館条例」「新潟市水族館条例施行規則」に則り、適正に入館料徴収事務を行っていきます。令和7年度の入館者数及び入館料収入の目標値は下記のとおりです。

	目標値	目標値の設定根拠
入館者数	549,000 人 以上	新潟市令和7年度当初予算（端数整理）
入館料収入	469,553 千円 以上	

工夫・改良をしながら水族館の魅力を最大限に発揮し、充実したサービスを提供し、目標値に達するよう努めます。常におもてなしの心を持ち、「来てよかった、また来たい」と感じてもらえるようなサービス提供を心掛け、リピーターの確保に努めていきます。

(3) 臨時開館・閉館及び開館時間の変更

条例上、水族館の休館日は12月29日から翌年1月3日、開館時間は午前9時から午後5時までとなっていますが、多客期の市民サービス及び法定点検等のため、新潟市と協議のうえ、以下の期間について臨時開館・休館、開館時間延長を実施したいと考えています。

- ① 臨時開館（年始）… 令和8年1月2日（金）・3日（土）
- ② 臨時閉館（電気設備法定点検等）… 令和8年3月5日（木）・6日（金）
- ③ 開館時間変更
 - a. GW… 令和7年5月3日（土・祝）～5月5日（月・祝）
開館時間1時間繰上（8:00～17:00）
 - b. 海の日3連休…令和7年7月19日（土）～21日（月・祝）
開館時間1時間繰上（8:00～17:00）

c. 夏期… 令和7年7月26日(土)～8月11日(月・祝)の土曜・日曜・祝日

開館時間1時間繰上(8:00～17:00)

d. お盆… 令和7年8月12日(火)～16日(土)

開館時間1時間繰上(8:00～17:00)

(ただし、③は予定。4月～7月上旬の入館状況による。)

2 事業の実施に関する業務

(1) 水族館展示基礎部門(常設展示)

「新潟市水族館の管理に関する基本協定書」で示す600種、20,000点の飼育規模を維持し、科学的配慮のもとに10の展示ゾーンでわかりやすく展示します。展示生物の充実と正確かつタイムリーな情報提供に努め、リピーター、特に年間パスポート利用者に対しても常に新鮮味のある、魅力溢れる常設展示を行います。

① 潮風の風景

サンゴ礁や干潟などさまざまな海岸環境を再現し、そこに生息する生物等を展示します。

② 日本海—大陸と列島に囲まれた海—

日本海に生息する生物等を浅瀬や深場等の環境ごとに分かりやすく展示します。「日本海大水槽解説」では、水生生物や海洋環境に関する知識の普及を目的に、日本海大水槽前で展示課職員による解説を実施します。展示生物の紹介、水族館のしくみなど多角的な解説をします。

③ 暖流の旅—黒潮と対馬海流—

日本近海の対馬海流や黒潮域で見られる生物等の展示や、育成室で育成の様子を展示します。

④ 信濃川—多様な陸水環境と魚類—

信濃川流域の多様な環境と水生生物を、擬岩などの造形物や写真、解説パネルなどを用い展示します。

⑤ 体験・学習

アクアラボで生物標本の展示等を行い、「アクアラボ体験」では水生生物に対する知識と理解を深める事を目的として観察と解説を行います。また、磯の生物に触れることのできる水槽で「磯のいきもの解説」を行い、水槽内の生物を近くで観察することによって、生物の扱い方や、生息環境への理解を深めていただきます。他に開架式ライブラリーの充実に努めます。

⑥ 水辺の小動物

アメリカビーバー、ユーラシアカワウソ、バイカルアザラシ、ウミガラスといった半水棲の水辺に生息する生物を展示します。

⑦ ドルフィンスタジアム

イルカの体のつくり、学習運動能力をショー形式で紹介します。ショーを通じてイルカの形態や生態・能力、ヒトとの関わり、海洋環境保全メッセージなどをわかりやすく伝えます。

⑧ マリンサファリーひれあしの入江—

トド、ゴマフアザラシ等ひれあし類を展示します。「マリンサファリ給餌解説」では餌を与えながら、からだのつくりや健康管理、運動能力などについて解説します。

⑨ ペンギン海岸

フンボルトペンギンを展示します。「ペンギン解説」ではフンボルトペンギンについて解説し、ペンギン海岸プールで餌を与えながら泳ぎ方や餌の捕り方を説明します。また、急速に個体数が減少している生息地の現状や、種の保全という立場から長年繁殖に力を入れてきた館の取り組みも解説します。

⑩ にいがたフィールド

新潟市近郊で見られる砂丘湖、田んぼなどを再現し、そこで見られる生物や季節による変化を紹介するとともに、地域の希少生物などの繁殖を目指します。

(2) 啓発・普及部門（企画展示・特別プログラム等）

魚類等や新潟の自然環境に関する知識を広げるために、教育的視点から施設を最大限利用するとともに地域の自然環境に出向き、幅広い市民ニーズに応えるため専門知識を活かした様々なプログラムを企画・提供します。

① 田んぼ体験（自主事業）＜ラムサール条約湿地自治体連携事業＞※

にいがたフィールドの田んぼを利用した全8回の事前募集型体験プログラムです。稲作体験（田起こし・田植え・草ふみ2回・柵とりつけ・稲刈り・脱穀）と、収穫したわらを利用したわら細工体験を通して、新潟の稲作の文化や田んぼの環境、生息生物と人との関係、田んぼが湿地の重要な要素であることから、湿地に対する保全・再生、環境問題等を学びます。

※新潟市が認証自治体であることを受け、湿地や新潟市について関心を高める内容を含む事業

② 野外体験教室（自主事業）

(ア) スナガニ観察会

砂浜でスナガニの観察や採集を行います。採集したカニの雌雄の見分け方等を学び、巣穴の構造を知るために石膏で型を取ります。

(イ) 貝の標本づくり

地先海岸で貝を採集し、採集した貝を用いて種の同定方法と標本作製の手順を学び実践します。

(ウ) 潟のいきもの観察会＜ラムサール条約湿地自治体連携事業＞

上堰潟と周辺の水路で水生生物を採集・観察します。生物だけでなく、潟の環境や生態系などについても学びます。

③ マリンピアカレッジ（講演会）（自主事業）

(ア) イルカとヒトの発声器官

鶴見大学より講師を招き、イルカとヒトの発声器官を解剖学的に比較しながら音を出す仕組みを解説します。

(イ) 大学での研究、水族館での研究

クラゲ研究で著名な北里大学の教授を招き、大学と水族館で行っている研究について紹介します。

(ウ) 新潟の湿地と水鳥＜ラムサール条約湿地自治体連携事業＞

「ビュー福島潟」より講師を招き、新潟の湿地環境の特性や重要性を伝えます。また、湿地で見られる水鳥を紹介し、潟の生態系について理解と関心を深める機会を提供します。

④ 講演会（自主事業）

（ア）水族館職員が語る 水族館での魚の研究、カニの研究

水族館職員が行っている水生生物に関する研究を、研究している職員が自ら語り、目的や内容、研究が実際に役立ったことなどを紹介します。

（イ）SADO～世界に誇る自然と文化～

企画展示と連動し、佐渡の生物や環境、生物と人の暮らしなど、それぞれの専門家を招聘して佐渡の情報を直接伝える機会とし、あわせてパネルディスカッションを行います。

⑤ 出張展示（自主事業）

他施設・他団体と協力し、館外へ出向いて水生生物の生体展示、クイズ大会、ワークショップなどを行い、楽しく学ぶ機会を提供します。

⑥ 社会教育連携（自主事業）＜ラムサール条約湿地自治体連携事業＞

『舟にのって水草刈りと泥上げ体験』と題し、にいがたフィールドの砂丘湖で舟にのって草刈りと、ため池で上げた泥を田んぼに入れる体験を行います。体験後は新潟市歴史博物館の学芸員を招き、水田と潟環境の歴史的な関係について紹介します。

⑦ 学校教育連携

（ア）総合学習の受入

水生生物や環境問題などについての質問やキャリア教育など、学校のニーズに合わせ、写真や資料を用いて講義します。

（イ）実習生の受入

専門学校生、大学生を対象に飼育実習、獣医実習、博物館実習を行い、飼育技術や展示技術・教育方法などの現場実習を行います。

（ウ）講師の派遣

アウトリーチ事業の一環として学校等へ赴き、野外観察などの指導、生物や仕事についての講義・指導を行います。

⑧ 行政機関連携（自主事業）

省庁、自治体などと連携し、パネル展示やワークショップなどで水生生物や海洋河川及び地域振興に関しての情報を発信します。

⑨ 企画展示

（ア）にいがたの潟と水生生物＜ラムサール条約湿地自治体連携事業＞

ラムサール条約の湿地自治体認証は新潟市が国内で初めて受けました。その新潟市が位置する越後平野に点在する湖沼の総称である「潟（かた）」に焦点をあて、潟の成り立ちや人との関わり、環境の変化と外来生物により影響を受ける生物相、ラムサール条約など、地域特有の水辺環境である潟について紹介します。

（イ）SADO～世界に誇る自然と文化～

日本の縮図とも言われながら知られていないことも多い佐渡について、水族館ならではの「水」をテーマとした展示を通し、その成り立ちや自然環境を解説します。

（ウ）カマイルカレスキュー ～保護から放流までの活動記録～

2023年2月14日に座礁したカマイルカについて、保護から治療、遊泳不良のため実施したリハビリ、放流までを映像や実際に使用した道具などを用いて紹介します。また、生物の漂着について水族館の活動と共に解説します。

(エ) フォトコンテスト

新潟市水族館で撮影した写真を Web 上で公募し、コンテストを実施します。受賞作品も Web 上で公開します。

⑩ いきもの教室（自主事業）

(ア) いきものの解剖

解剖を通していきもののからだのつくりを学びます。あわせて生きている状態を観察し、多方向からにいきもののからだについて知る機会とします。

(イ) ビーバーのうんちペーパーづくり

ビーバーの糞の観察と糞を利用したペーパーづくりを通し、生態について理解を深めます。

(ウ) ペンギンの体

ペンギンの体とその仕組みを学び、実際にペンギンを観察します。観察を活かしてぬいぐるみに色を塗り、自分だけのペンギンを完成させます。

⑪ ガイドツアー（自主事業）

(ア) ナイトツアー

閉館後の夜の水族館で、生きものの昼と夜の活動の違いや外観の変化等をツアー形式の解説で学び、生態や自然環境への関心を深めます。

(イ) イルカバックヤードミニガイド

飼育設備やバックヤード、ショーステージをツアー形式で見学しながらイルカの生態について解説します。

⑫ 参加型イベント

(ア) にいがたフィールドガイド＜ラムサール条約湿地自治体連携事業＞

にいがたフィールドで自然環境と希少生物の域外保全について紹介します。季節変化を感じられるように4月～10月（8月は除く）に毎月開催します。

(イ) 企画展示ガイドツアー

企画展示『SADO～世界に誇る自然と文化～』の会場内をツアー形式で解説します。

⑬ 障がい者向けプログラム（自主事業）

『ドリームナイト・アット・ジ・アクアリウム』と題し、障がいのあるこどもとその家族等を閉館後の水族館へ無料で招待します。周囲に気兼ねなく楽しいひとときを過ごしてもらいます。協賛会社から受付や参加者のサポートなどの協力を得ながら実施します。

⑭ 記念日イベント

(ア) ペンギンの日

世界ペンギンの日（4月25日）にあわせ通常の展示では伝えきれないペンギンの生態や野生の現状について理解を深めてもらうイベントです。

(イ) カワウソの日

世界カワウソの日（5月最終水曜日）にあわせ、カワウソ類の生態や、野生の生息状況などを解説パネルで展示するとともに、ユーラシアカワウソに給餌をしながら解説を行います。

⑮ SDGs イベント

SDGs の取り組みの一環として海岸清掃を行います。広く募集し市民と共に活動をすることで、生物の生息する環境や、環境に影響する海ゴミの問題について多くの方に考えてもらう機会と

します。

(3) 調査・研究部門

科学的な飼育や展示、および科学技術の発展のため、魚類等に関する調査研究を行います。その成果をホームページ・SNS・研究会等での情報発信、また常設・企画展示につなげることで広く還元するよう努めます。他業務との調整を図りながら調査研究を積極的に実施します。

① 飼育生物に関する調査研究

魚類や無脊椎動物等、飼育生物の繁殖・育成を水産研究機関等と取り組むほか、ほ乳類・鳥類では通年得られる検体やデータを用いて大学等の研究機関と協力し、生物学等の知見の蓄積に貢献するとともに、研究成果等を展示に反映させます。

② 野生水族に関する調査研究 ―地域の自然史に関する知見の蓄積と公開―

漂着生物の情報を収集し、生態学的・生物学的解明に役立てます。現場で計測と状態の確認、標本採取などを行います。得られた情報及び資料は、展示に反映させます。ニホンキサンゴ、コトクラゲ等、佐渡海峡に生息する生物の調査研究を行い、環境教育等に役立てます。

③ 希少水族に関する調査研究 ―繁殖、種保存活動、希少水族の生息域調査、生息域外保全に関する知見の蓄積と公開―

公益社団法人日本動物園水族館協会の繁殖計画に則し、フンボルトペンギンの生息域外保全（飼育下の繁殖等）に取り組めます。コシノハゼ、シナイモツゴ、ホトケドジョウ、ハクバサンショウウオ、タダミハコネサンショウウオの生息域調査を行い、これらの繁殖技術の確立、向上に取り組めます。また、一般社団法人日本水族館協会の科学的根拠に基づく水生生物資源の持続的利用の立場による水生生物の飼育展示・教育研究・保護保全活動に協力し、飼育技術の向上、調査研究に取り組めます。

3 市民ボランティア

市民ボランティアの活動目的を大きく「水族館運営のパートナーとして」「来館者と水族館をつなぐ役割として」「生涯学習の場として」の3つとし、活動の運営を行います。現在103名が登録していますが、館のイベントの補助、館内案内、磯の体験水槽解説、ビーチクリーン活動などを通して、職員や来館者との交流等の活動を促し、前記の3つがバランス良く達成できるように努めます。

令和7年度は4月中旬頃から5月にかけて新規募集、6月・7月に全2回の新人研修を行い、7月に正式登録し活動を開始するスケジュールを考えています。新人研修の最終日と同日にボランティア総会を開催することで、新規登録者と継続メンバーとの交流を図ります。

一人ひとりのボランティアの自己実現をサポートするとともに、水族館・来館者・ボランティアの3者が満足できる活動を推進し、持続的なボランティア活動を目指します。

4 他館等との協力

平成19年に友好館提携を結んだ「アクアマリンふくしま」をはじめ、他の水族館・動物園、研究機関等と協力し、生物交換、飼育生物の繁殖や育成に関する情報交換・技術交流などを活発に行います。また、行政機関や自然保護団体等と協力し、種の保存や自然保護の啓発に努めます。

その他大規模災害に備え令和2年に「東京都葛西臨海水族園」と、令和6年からは「名古屋港水族館」も加えた3者で相互救援に関する協定を締結し、密に情報を交換するなど、救援活動を円滑に行う体制を築きます。

5 広報・広告宣伝について

各メディアの特性を把握しながら最適な広報・広告宣伝ができるように努めます。

「自社メディア（HPやチラシなど）」「ソーシャルメディア（XやInstagramなど）」「プレスリリース」「有料広告宣伝（TVスポット・情報誌など）」を4つの柱として行います。

「自社メディア」として、ホームページやチラシ・ポスターなどを活用します。ホームページは、より解りやすい表現やイメージしやすい写真を活用し、タイムリーな情報を発信します。チラシやポスターなどの印刷メディアの制作にも力を入れ、館内での掲示や配布だけでなく、県内及び隣県の小学校や幼稚園・保育園など対象に合わせた紙面づくり行います。

「ソーシャルメディア」での情報発信を積極的に展開します。展示生物の紹介や一瞬の出来事を写真や動画とともに魅力的に発信するため、展示スタッフによるX等SNSの運用を行います。また、SNSなどインターネット上のサービスを活用し、エリアを限定し効率的、効果的な広告展開を行います。各メディアそれぞれの特性を考慮した情報発信方法を研究し、目的に応じた使い分けを行います。

テレビや新聞のニュースとして取り上げてもらえるように「プレスリリース」を含むメディアへの情報提供を積極的に行うことも重要課題と考えています。インターネットメディアでは、新潟市の各部署が展開しているSNSページや観光コンベンション協会運営の観光情報サイト、県内向け情報提供サイトなどへの積極的な情報提供を行い、草の根の広報を進めていきたいと考えています。

「有料広告宣伝」は、これまでの実績をふまえた上で、しかし前例にとらわれすぎることのないように、効率的、効果的な方法および量になるように実施します。実施利用するメディアは、「テレビCM（15秒）」「テレビ番組内コーナー（1分/週）」「ラジオCM（20秒）」「旅行雑誌広告」「タウン情報誌・フリーペーパー広告」「新聞広告」「Web・ソーシャルメディア広告」を想定しています。これらのメディアを限られた予算の中でより効果的にプロモーションできるように、メディア配分、実施時期、地域および客層について計画します。

ターゲットとする地域は、平時は新潟県内を中心に、繁忙期は県外からの観光客を意識した方法及び量を検討し実施します。新潟県内は年間を通してテレビCMを実施します。より多くの方が新潟市水族館へ足を運びたいような仕掛けを計画します。

6 アンケートの活用

館内アンケートや各教室参加者アンケート等を実施することで、来館者の声の収集に努め、その声を検証し、事業実施や事業の改善に役立てていきます。

「館内アンケート」は、満足度を数値化できるような設問を盛り込むことで、各種サービス別に来館者の客観的な評価やニーズの把握に努めます。また、「各教室参加者」等の水族館ファン層に対する「質的」なアンケートの分析などにより、ニーズをきめ細かに把握することで、展示の充実および来館者サービスの向上に努めます。その他、館内に設置した「意見箱」で、館内をご覧いただいた際の率直な意見をいただき、水族館の管理運営改善に活用します。

7 収益事業（自主事業）

来館者に対する利便性を図るため、レストラン及び売店、自動販売機等の設置を行います。自動販売機については利益の一部を施設の運営に充てます。

- | | |
|-----------------|-----------------------------|
| ① レストラン | 1 ケ所・本館 2 階 |
| ② 軽食売店 | 2 ケ所・屋外、屋上 ※季節・天候により営業中止 |
| ③ 移動販売車 | 1 ケ所・アプローチ棟手前 ※季節・天候により営業中止 |
| ④ 売店 | 1 ケ所・アプローチ棟 |
| ⑤ 自動販売機 | 18 台・館内、屋外各所 |
| ⑥ ロッカー | 1 ケ所・アプローチ棟 |
| ⑦ 記念メダル | 2 ケ所・本館 1 階 |
| ⑧ プリントシール機 | 1 ケ所・水辺の小動物 |
| ⑨ カプセルトイ（コイのエサ） | 1 ケ所・ニシキゴイ池脇 |